

# 中井支店営農だより 令和7年7月

TEL: 81-2776



## <注意>

「収穫〇日前」：定められた使用時期。記載されている収穫前日数まで散布ができます。（前日は24時間前）

「回数」：農薬成分の総使用回数のこと。栽培期間中、何回散布可能か確認しましょう。

▲▲店舗により農薬の在庫状況が異なりますので、記載の農薬を購入される場合は購入先の店舗に事前に在庫確認をしていただくとスムーズに購入できます。▲▲

## 【水 稲】

### 中干し

- 効果 ① 無効分けつを抑える ② 根の活力を高める ③ 倒伏に強くする  
④ 田面を固くして秋のコンバイン等の作業性を高めるなど。

田面に軽くひびが入る程度を目安に、5日から1週間程度行います。（強い中干しはさける）

土壌中に酸素を送り根の健全な生育を促します。茎数が1株20本を超えたら実施しましょう。

### 追 肥

中干しが終わると、追肥の時期となります。

※元肥一発肥料を使用した場合には追肥の使用の必要はありません。

幼穂の長さが2cm前後になった頃を追肥時期の目安にしましょう。

はるみ・キヌヒカリ 出穂15日前頃 化成肥料 17-0-17 12kg程度/10a

てんこもり 出穂20日前頃 化成肥料 17-0-17 18kg程度/10a

施肥時期の目安（5月25日植えの場合）

はるみ・キヌヒカリ 7月22日前後 てんこもり 7月22日前後

葉色が濃い場合や茎数が多い場合は倒伏につながる為、追肥時期を遅らせ施肥量を減らしましょう。

出穂期の目安（5月25日植えの場合）

はるみ・キヌヒカリ 8月6日頃 てんこもり 8月11日頃

### 病害虫防除

7月中旬～下旬

#### 〇紋枯病

リンバー粒剤 3～4 kg/10a 収穫30日前 2回又は

モンカット粒剤 3～4 kg/10a 収穫14日前 4回

出穂30日前～10日前に、株元にかかるよう散布

#### 〇イネツトムシ

バダン粒剤4（劇） 3～4 kg/10a 収穫30日前 6回 常発地区は必ず散布又は スミチオン

#### ニカメイチュウ

乳剤 1,000倍 100ml/水100ℓ 収穫21日前 2回

#### 〇ヒメトビウンカ

スミチオン乳剤 1,000倍 100ml/水100ℓ 収穫21日前 2回

※縞葉枯病の症状が出ている株を発見したら、株ごと抜き取り園外廃棄を行いましょう。

※中後期除草に使用する2, 4Dアミン塩について、有効分けつ終止期～幼穂形成期前まで、収穫60日前までとなっています。収穫前日数については十分注意しましょう。

## 斑点カメムシ類について

- ・イネカメムシは7月から水田に飛来します。発生を確認しましょう。（日中は株元に隠れるため朝に観察）
- ・イネカメムシは、他のカメムシと異なり、出穂期に不稔の被害が発生します。発生園では 減収・品質低下を招きますので除草・早期の薬剤散布を組み合わせで防除を徹底しましょう。
- ・出穂期～穂揃い期 1回目（イネカメムシ発生している水田）
- ・出穂期の10日～14日後 2回目（他の斑点米カメムシと同時防除）

※イネカメムシの発生している水田では斑点カメムシ類の防除に8月下旬以降に3回目の散布すると効果がより高くなる。

## <雑草管理>

〇出穂前の畦畔の草刈りは出穂の10日前までに済ませましょう。

〇出穂前の草刈後3週間程度で雑草が結実し始めます。1回目の防除後に直ちに畦畔の草刈りをしましょう。

〇収穫前の畦畔草刈りは収穫期2週間前以降に行いましょう。



## 【レモン】

### 病害虫防除

7月

○かいよう病・黒点病(単用散布) コサイド3000 2,000倍 50g/水100ℓ 又は  
イデクリン水和剤 500倍 200g/水100ℓ  
(薬害軽減のためクレフノン200倍を加用する)

7月下旬～8月中旬

○黒点病 シマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ 収穫90日前 4回

○ミカンハモグリガ・アザミウマ類 メビウスフロアブル (劇) 3,000倍 33ml/水100ℓ  
チャノホコリダニ・ミカンサビダニ 収穫14日前 2回

※昨年度、梅雨明け以降にサビダニが多発しました。梅雨明け後、晴天が続く場合 メビウスフロアブル  
を必ず散布しましょう。

※カイガラムシを多く見かけた場合は、コルト顆粒水和剤3,000倍 33g/水100ℓ 収穫前日 3回  
を散布する

※シマンダイセンを散布できない場合は、キノンドー水和剤80 800倍 125g/100ℓ 収穫30日前  
3回を散布する。

## 【う め】

### 病害虫防除

7月中旬～下旬

○黒星病・環紋葉枯病 トップジンM水和剤 1,500倍 66g/水100ℓ 収穫21日前 3回  
○モモヒメヨコバイ テッパン液剤 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 2回

※ここ数年モモヒメヨコバイが7月に多発しています。発生すると葉の光合成能力の低下や早期落葉を  
起こして、樹勢の低下の原因となるため、必ず防除しましょう。

### 礼肥の施用

5月下旬～7月中下旬

(目的) 樹勢回復と翌年の花芽充実のため。一番重要な肥料なので、必ず施用しましょう。

梅配合 120kg/10a

## 【キウイフルーツ】

### 病害虫防除

7月上旬

○果実軟腐病 ナリアWDG 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 2回  
○キウイヒメヨコバイ モスピラン顆粒水溶剤(劇) 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫7日前 3回  
カイガラムシ類  
○カメムシ類発生時 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回

7月下旬～8月中旬

○キイロマイコガ フェニックスフロアブル 4,000倍 25ml/水100ℓ 収穫7日前 3回

夏季剪定 止め葉が出る6月中旬ごろより夏季剪定を実施し、棚下の明るさを維持しましょう。

※晴天の日で、土の表面にところどころ日が射す程度

乾燥防止対策 梅雨明け後の乾燥に注意。敷き藁や灌水を実施し、土壌の乾燥を防ぎましょう。

## 【か き】

### 病害虫防除

7月上旬～中旬

○コナカイガラムシ類 スミチオン水和剤40 1,000倍 100g/水100ℓ 収穫30日前 3回  
カメムシ類・イラガ類

○うどんこ病・落葉病 ストロビードライフフロアブル 3,000倍 33g/水100ℓ 収穫14日前 3回  
炭疽病

カメムシ発生時の対策 7月上旬～10月下旬(夜間の飛来と加害が多いため、夕方に散布しましょう)

モスピラン顆粒水溶剤(劇) 4,000倍 25g/水100ℓ 収穫前日 3回

※カメムシは山林から飛来して加害します。農薬散布後も、園内を良く見回しましょう。

摘果 (肥大促進・翌年の花芽分化促進)

7月中旬までに1結果母枝に2～3果、1結果枝に1果を目安に摘果をしましょう。この時期に摘果し肥大促進させないと、以後の肥大が悪くなります。

## ——【く り】——

**病害虫防除** 6月下旬～7月下旬

カミキリムシ類 トラサイドA乳剤 200倍 500ml/水100ℓ 裂果前、但し収穫14日前 1回  
葉にかからないように樹幹に散布します。

実炭疽病 シマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ 収穫7日前 2回

## ——【お 茶】——

**病害虫防除**

6月下旬～7月上旬

○輪斑病・新梢枯死症 カスミンボルドー 1,000倍 100g/水100ℓ 摘採14日前 2回  
※剪整枝後、出来るだけ早く（3日以内）散布する。

7月中旬～7月下旬

○チャノミドリヒメヨコバイ コルト顆粒水和剤 3,000倍 33g/水100ℓ 摘採7日前 2回  
チャノキイロアザミウマ  
チャトゲコナジラミ  
※夏整枝後、2週間を目安に散布する。

### ①二番茶を摘採した場合の管理

**整枝作業**

整枝時期 二番茶摘採10日後を目安に、遅れ芽が出揃うのを待ってから行いましょう。

整枝位置 二番茶の摘採面

※整枝を怠ると摘採面が不揃いになりやすく、来年の一番茶の減収を招きやすいので、必ず行いましょう。

### ②二番茶を摘採しない場合の管理

**整枝作業**

整枝時期 7月上旬を目安に、二番茶芽が出揃うのを待ってから行いましょう。

整枝位置 一番茶摘採面の2～3cm上で行いましょう。ただし、二番茶芽が病害虫の被害で十分に生育しなかった場合は、一番茶摘採面より数cm下で整枝します。

\* 整枝を怠ると芽数が少なくなり、株面の枝が不揃いになるため、来年の一番茶の減収を招くので、必ず行いましょう。

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。

## ☆中井支店からのお知らせ☆

### ①回覧・注文書の取りまとめについて

・保有米袋・バインダー紐・コンバイン袋等 ・春植馬鈴薯種子・みかん関連資材・農産物低温貯蔵  
・廃ビニール・廃プラスチック回収のご案内・野菜・果樹秋肥料・農薬

申込締切日: 令和7年7月9日(水)まで

最寄りの支店(到着)までお届け下さい。

下中管内の方は、下中集出荷場(ポスト)・前羽ポスト・下中支店(到着)までお届け下さい。